

B—47 被服生活の実態について（第3報）

家事労働合理化の面から既製服の普及率と、生活の洋風化の面から平常着・外出着の様式などについての調査結果および考察について報告する。

鹿児島大 小林 孝子

1. 近年の国民生活白書は、国民消費の量的水準の上昇ばかりでなく、質的にも内容が変化したことをとりあげてこれを近代化と述べ、またその近代化の特徴として、①生活の洋風化、②家事労働の合理化、③レジャー消費の増大などを挙げている。そのような生活の平準化傾向の中にあっても各地域の特性はその住民生活に大きな影響を与えるものと考えられるので、私は熱帯に近い地理的・自然的特色を有する南日本の被服生活の実態をはあくし、家庭科教育に資するため近年調査を進めている。

2. 鹿児島県内の農村地区の5高校の学校長宛調査用紙を郵送し、学校を通じて（家庭科教師）生徒に配布し記入されたものを返送してもらったものである。

3 既製服の普及率といっても、成年男・女・子供・赤ちゃんについて、また下着・洋服・和服について、さらに寝具その他について「既製品を買う」「仕立をたのむ」「家で作る」の間には種々の型が見出され、今後の被服製作指導の好資料をえた。なお、筆頭者夫妻の平常着・外出着の様式についても一応の型が見出され、洋風化＝近代化という現代の安易な指導への反省を痛感した。